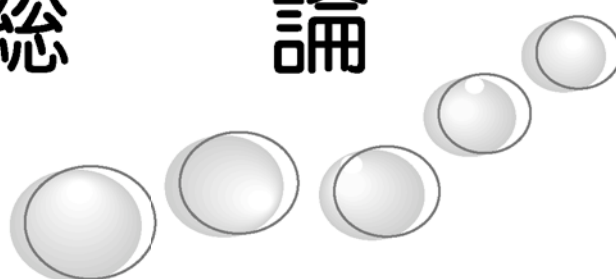




第 1 部

総 論



1. 計画策定の目的
2. 健康の概念
3. 計画の基本方針
4. 計画のキーワード
5. 計画の位置づけ
6. 計画の期間
7. 計画策定体制

1 計画策定の目的

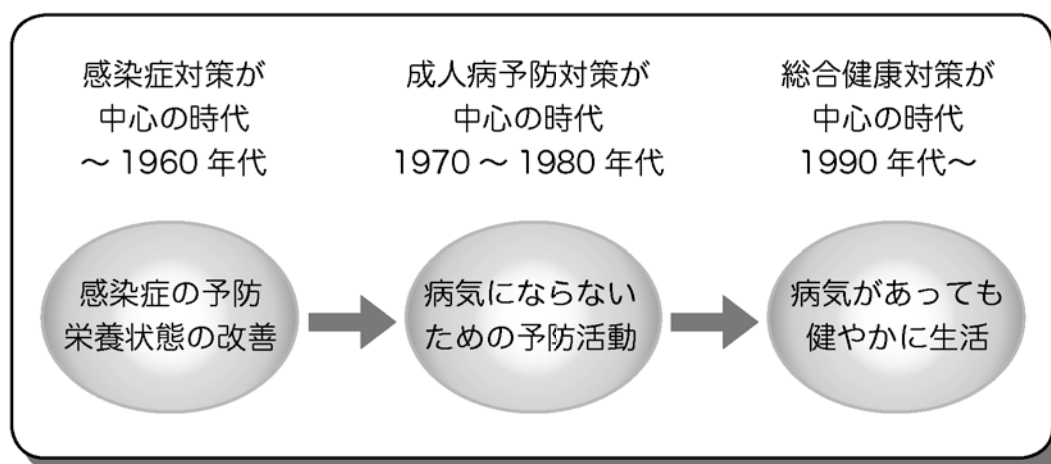
時代にあった健康づくりをすすめていきます

これまで健康問題は、感染症対策・成人病予防対策など病気の予防対策を中心に進められてきました。

精華町においても「健康は、私たちが豊かで幸せな人生を送るための重要な資源である」（1986年WHO「オタワ宣言」）という考え方のもと、感染症対策、健康診査事業や健康増進事業による生活習慣病予防対策などを積極的に推進し、住民の健康づくりに努めてきました。

しかし、時代の変遷とともに、急速な少子高齢化、疾病構造の変化など、健康を取り巻く背景は大きく変動し、また、住民の健康に関する価値観も多様化していることにより、健康課題は変化しています。そこで、病気の予防対策にとどまらず、新たに元気づくり対策という視点を取り入れ、「子どもから高齢者まで各年代において病気の予防やその進行を防ぎながら、生きがいややりがい等を持ち、いきいきとした（総合的な健康）生活を送ることができるまちづくり」を目指し、住民の思いを主体とした健康増進計画を策定します。

図：健康課題の変遷

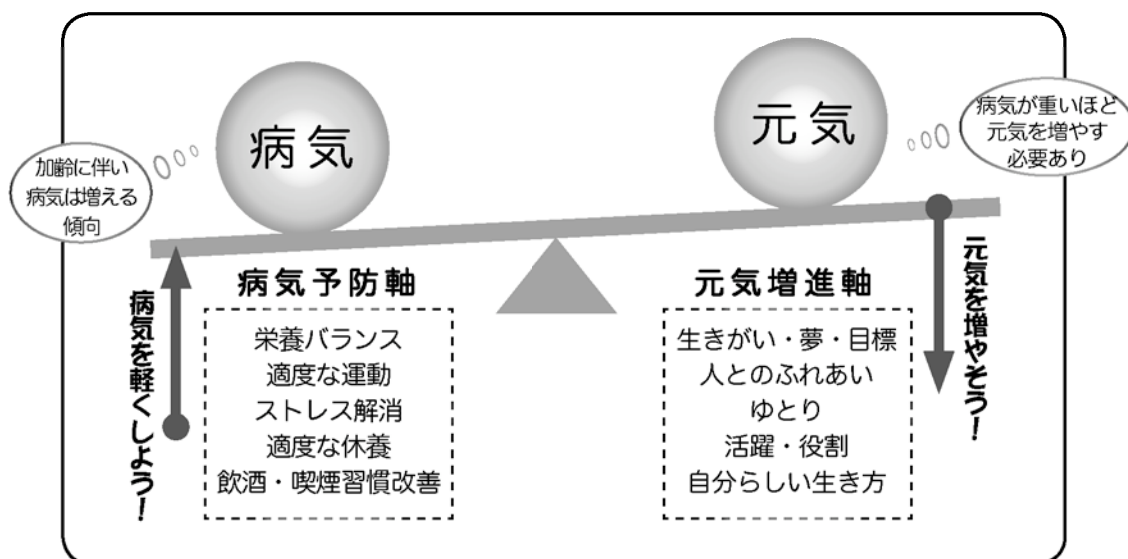


2 健康の概念

増やそう元気 減らそう病気
健康は、元気と病気のバランス加減！

計画づくりのスタートにあたり、「健康に生きていくためには何が大切か」について、ワーキング委員みんなで考えました。健康のとらえ方としては、病気を予防する力をみる「病気予防軸」と、元気を増やす力をみる「元気増進軸」の二軸に分けて考えました。健康に生きていくために大切なものとして、病気予防軸5項目（検査データ、食事、運動、ストレスを減らす、酒・たばこをやらない）、元気増進軸5項目（生きがい・目標、ふれあい、ゆとり、活躍・役割、自分らしさ）の計10項目の中から上位2位を各委員が選び、点数化して比較したところ、結果は「病気予防軸」35点、「元気増進軸」52点でした。

図：元気と病気のバランス



このことから、「元気増進軸」の重要性が伺われ、「病気予防軸」だけに偏らない、「元気増進軸」を盛り込んだ計画策定の重要性を確認、共有しました。

そして、健康とは「元気と病気のバランスが、その人らしく調和している状態」と定義しました。この両者のバランス加減は、性、年齢、職業などにより一人ひとり異なるため、その人らしいバランスを発見する過程を、家庭・地域・職場・学校・行政などで支援していくことが、これからの健康づくりに求められます。

3 計画の基本方針

住民が主役の健康づくり

元気と病気の調和

これまで取り組んできた病気予防対策にとどまらず、元気づくり対策という視点を加え、子どもから高齢者まで各年代において病気の予防や悪化を防ぎながら、生きがいややりがい等を持ち、いきいきとした（総合的な健康）生活を送ることができるまちづくりを目指します。

精華らしさを活かす

精華町には、素晴らしい環境、人、文化などの資源があります。このような資源を最大限に活用して、「精華町だからできる健康づくり」「精華町だからやってみたい健康づくり」の知恵をみんなで出し合い、精華町らしさのある健康づくりを目指します。

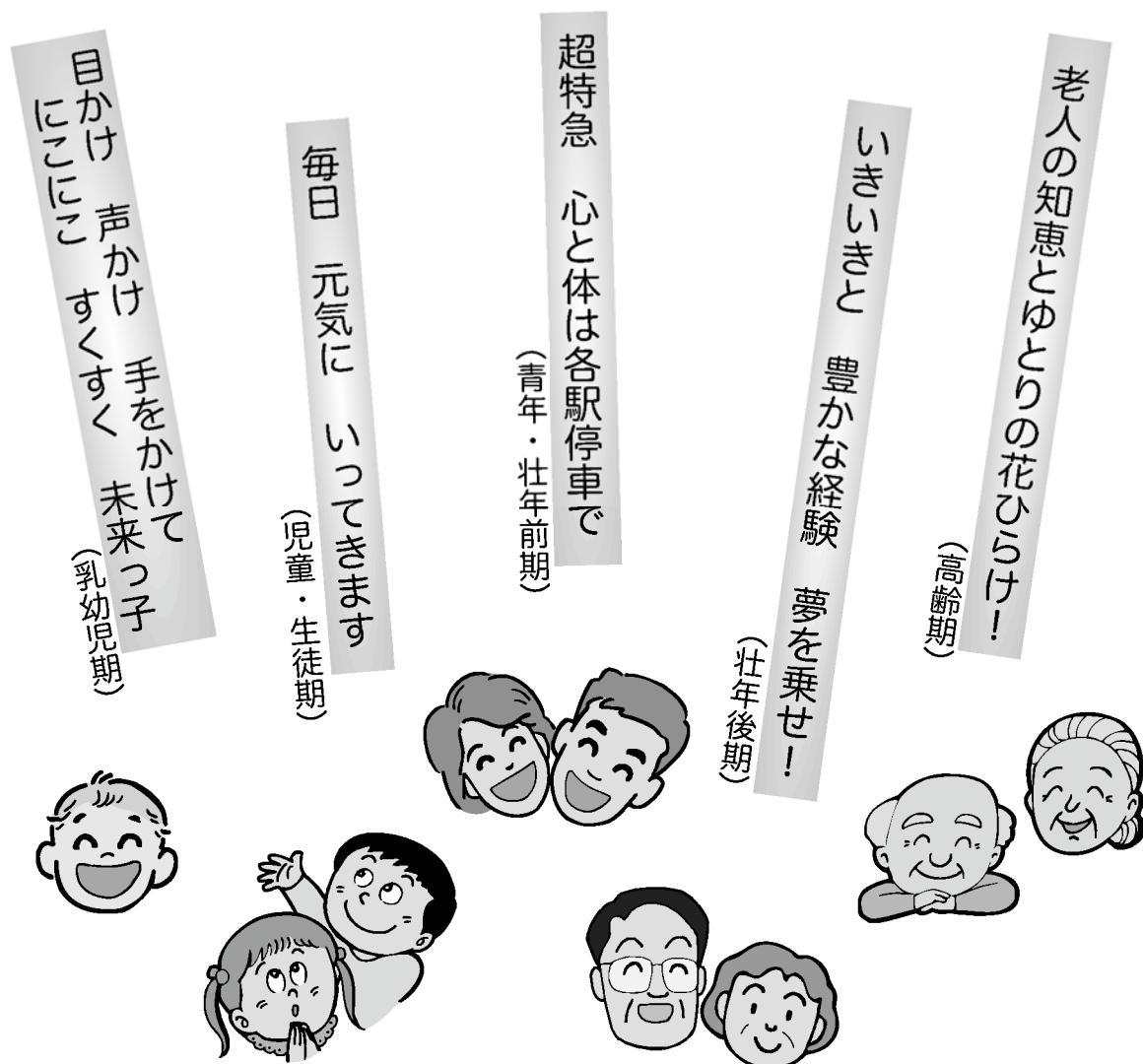
健康づくりへの住民参加・参画

町民のみなさんに積極的に健康づくりに参加・参画していただきます。

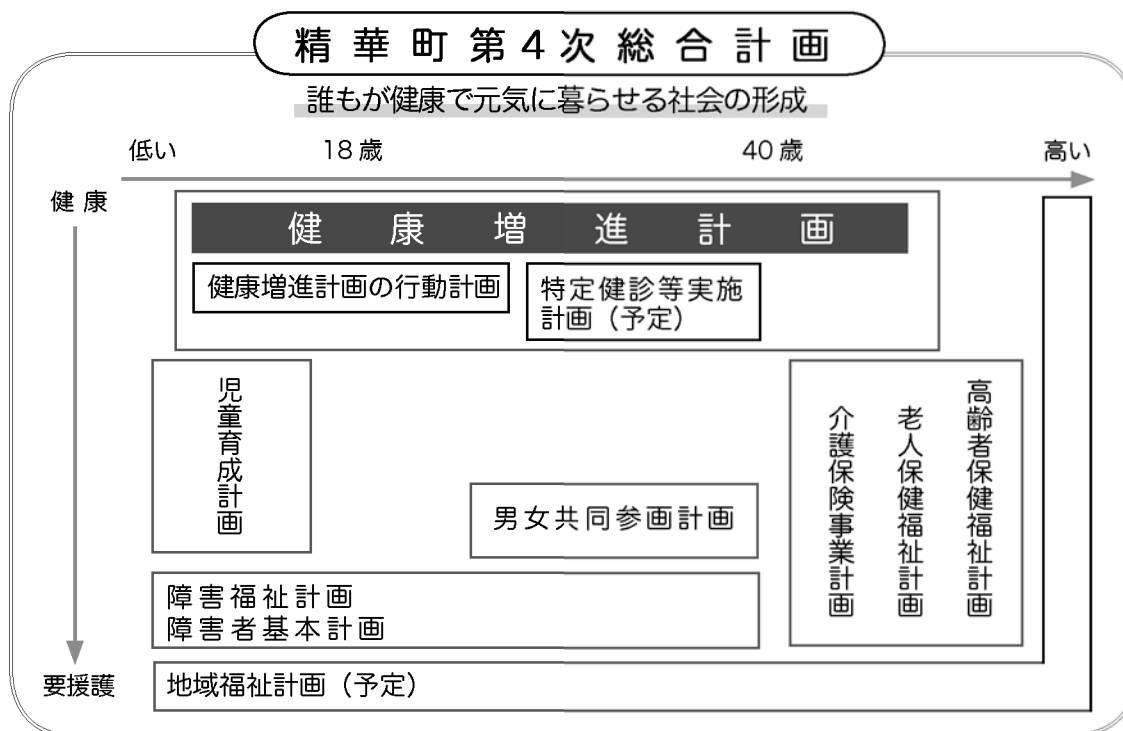
「自分の健康は自分で守る」という考え方で、多様な健康づくりの場を参加・参画型で創造していきます。そのために、住民と行政が目的意識を共有し、対等な立場で協力しながら事業を推進していきます。行政の役割は、住民のみなさんが積極的に健康づくりを推進していくためのさまざまな環境を整えていくことです。

4 計画推進のキーワード

前述のような、健康課題の変遷やこれからの健康の概念を取り入れ、ワーキング委員会で検討した結果、この計画の推進のためのライフステージごとのキャッチフレーズを次のように決めました。



5 計画の位置づけ



6 計画の期間

本計画の推進期間は、平成20年度から平成24年度までの5年間とします。

また、計画推進の過程において、社会情勢や、保健福祉環境を取り巻く状況の中で、計画の見直しが必要になった場合は柔軟に対応することとします。

7 計画策定体制

